

## 国立大学法人島根大学経営協議会（第119回）〈議事要録〉

日 時 令和3年9月30日（木）14:03～16:05  
場 所 本部棟5F大会議室（対面及びWEB会議）  
出席者 服部学長，藤田理事，肥後理事，大谷理事，椎名理事，長澤理事，宮脇理事，上野理事，  
大西委員，高塩委員，有澤委員，秦委員，上定委員，谷口委員，大矢委員，  
福島委員  
欠席者 三輪委員  
オブザーバー 千家監事，栗原監事

### 議題1 管理学則の一部改正について

- 藤田理事から管理学則の一部改正について説明があり，審議の結果，原案通り議決された。

### 議題2 学則，大学院学則の一部改正及び関係規則の制定について

- 肥後理事から，学則，大学院学則の一部改正及び関係規則の制定について説明があった。
- 学外委員から，「新型コロナウイルス感染症への罹患等により受験できなかった者に対する入学検定料の返還に関する規則」第2条に入学検定料の返還対象となるのは，追試験等の代替措置を設定しない入学者選抜試験に限るものとするとの回答があった。肥後理事から，追試験を受験できなかった場合は返還しないとの回答があった。同学外委員から，コロナ罹患等で受験できなかった受験生に対して金銭的な救済を行うとの趣旨だが，追試験についても同じ理由で救済の対象とすべきではないのかとの意見があった。肥後理事から，文部科学省からは，コロナ罹患等で受験できなかった受験生に対して受験機会を保障することのみが求められており，本学は基本的に追試験の対応を取っているが，追試験を行うことが難しい試験については検定料の返還を追試験の代替措置とすることも可能であることを文部科学省に確認し，本規則案としているとの説明があった。学長から，他方で，コロナ罹患等のみをことさらに救済しなければならないのかという議論もあり，大学としてどこかで線を引かなければならず，当該規則案を提案したとの説明があった。学外委員1名から，前出の学外委員の意見に賛同するとの発言があった。前出の学外委員から，様々なケースが考えられるので，ケースごとの規定を設けるのではなく，規則の趣旨に準じたケースであれば学長の判断によって対象者を決定できるような規定を設けてはどうかとの意見があった。
- 学長から，規則案を再度検討したいとの発言があり，本議題は改めて審議することとなった。

### 議題3 職員任免規程の一部改正（救急救命士の一般職から医療職への配置転換）について

- 藤田理事から、職員任免規程の一部改正（救急救命士の一般職から医療職への配置転換）について説明があった。
- 学外委員から、6名の救急救命士はドクターヘリやドクターカーなど病院外で活動していたのか、また、上昇が見込まれる年間約140万円の人件費の内容について質問があった。椎名理事から、救急救命士はドクターカーでの活動のために配置していたこと、今後、病院内で看護師に準ずる医療行為を行う医療職として配置することから給与体系の変更に伴い人件費が上昇するとの回答があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

### 議題4 令和3年度最低賃金改正に係る対応及び契約職員給与規程の改正について

- 藤田理事から、令和3年度最低賃金改正に係る対応及び契約職員給与規程の改正について説明があり、審議の結果、原案通り議決された。

### 議題5 令和3年度人事院勧告の対応について

- 藤田理事から令和3年度人事院勧告の対応について説明があった。
- 学外委員から、島根大学はこれまでプラス勧告に対しても人事院勧告に準拠した給与改定を行っているのかとの質問があった。藤田理事から、本学は今までプラス勧告マイナス勧告ともに人事院勧告に準拠して対応してきているとの回答があった。
- 学外委員から、事務職員の定年延長に向けてどのような検討をされているのかとの質問があった。藤田理事から、定年の段階的引き上げについては早急に検討を開始する必要があると考えているとの回答があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

### 議題6 令和元事業年度における教育研究高度化積立金（目的積立金）の取り崩しについて

#### 議題7 令和3年度補正予算（第1号）（案）について

- 議題6及び議題7は関連する議題であるため合わせて審議された。
- 長澤理事から、令和元事業年度における教育研究高度化積立金（目的積立金）の取り崩しについて、及び令和3年度補正予算（第1号）（案）について説明があった。
- 学外委員から、新実習船は乗船定員が大きく減るが活動に支障はないのかとの質問があった。長澤理事から、新実習船は機能面が向上するため稼働率を上げることで調整可能と考えているとの回答があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

### 報告1 第117回経営協議会（書面審議）の結果について

### 報告2 第118回経営協議会（書面審議）の結果について

- 学長から、第117回及び第118回経営協議会（書面審議）の結果について報告があつ

た。

### 報告3 第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について

- 肥後理事から、第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について報告があった。
- 学外委員から、評価結果を踏まえて次期中期目標・中期計画に活かしたり、学内の予算配分に反映させたり、他大学の好事例を取り入れるなどPDCAサイクルを回していく必要があると考えるが、評価結果を今後どのように活用していくのかとの質問があった。学長から、第4期中期目標・中期計画は国から示された大綱から各大学が選ぶ方式であり、第3期の評価結果を直接第4期の計画に反映させる仕組みにはなっていないため、第3期の評価結果をどう活かすかは大学独自で考える必要があるが、来年度受審する大学機関別認証評価における報告書の作成にあたって活用することを考えていること、学内の予算配分に反映させることは考えておらず、本学としては良い点を伸ばしながら他大学の事例も参考にしていきたいとの回答があった。

### 報告4 第4期中期目標・中期計画（素案）の策定について

- 本件は報告を取り下げた。

### 報告5 地方大学・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出」の取組状況等について

- 大谷理事から、地方大学・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出」の取組状況等について報告があった。
- 学外委員から、国費支援期間の特例的延長に申請するのか、また、審査に通ると単年度あたり5億円程度を上限とする国費支援があるが、大学や県等も費用を負担するのかとの質問があった。大谷理事から、申請の方向で検討しており鋭意準備を進めていること、国や県から補助が出れば大学もそれに見合う額の負担を考える必要があり、負担額については精査していくとの回答があった。
- 学外委員から、貿易摩擦等により事業成果の後ろ倒しが生じることが予想され、そういう状況で特例的延長をしてもらうための丁寧な状況説明が必要だがその点についてどう考えているのかとの質問があった。大谷理事から、航空機に関しては下方修正をせざるを得ないが、もう一つのテーマであるモーターに関してはコロナの影響は少なく、ドローンなどに需要があること、航空機、モーター、人材育成の3つの柱で事業を行っているが、成長・回復が難しい分野を補う新たな柱も検討しているとの説明があった。

### 報告6 寄附講座「総合医療学講座」の更新について

- 本件は、書面をもって報告に代えた。

#### 報告7 令和2事業年度財務諸表の承認及び令和2事業年度財務状況分析資料について

- 長澤理事から、令和2事業年度財務諸表の承認及び令和2事業年度財務状況分析資料について報告があった。
- 学外委員から、例えば附属病院についてコストのみを示してもそれに見合った収益が上がっているかどうかは分からないのでそれだけでは意味がなく、病院の活動が増えれば収入と支出両方が増えていくので、それで採算が取れているのかという分析が必要になってくる。学部・研究科については、例えば外部資金の獲得額を含めて考えるなど、活動全体がわかるような整理が必要ではないかとの意見があった。長澤理事から、今後は全体的な財務分析だけでなく、部局の活動とコストを紐づけて分析を行い、資源配分に活かしていきたいとの説明があった。さらに学長から、コストとパフォーマンスを紐づけて評価するにあたり、研究成果に比べて教育成果の可視化については何を成果と見なすのかという点で特に課題があるが、分かりやすい資料を提示していきたいとの発言があった。

#### 報告8 令和3年度前期資金運用報告について

- 長澤理事から、令和3年度前期資金運用報告について報告があった。

#### 報告9 令和4年度概算要求の概要について

- 長澤理事から、令和4年度概算要求の概要について報告があった。

#### 報告10 附属病院運営状況について

- 椎名理事から、附属病院運営状況について報告があった。

#### 報告11 理事（医療・附属病院担当）の業務執行状況（強みと課題）について

- 椎名理事から、理事（医療・附属病院担当）の業務執行状況（強みと課題）について報告があった。
- 学外委員から、以前、将来的に医師が過剰になっていくことが想定される中であっても多くの医師を採用し県内に配置していると伺ったが、その戦略は今後も続けていくのか、また、医師確保の調整を市町村と個別に行っているのかとの質問があった。椎名理事から、県内の市町村で医師の数及び診療科に偏在があり、患者年齢層も地域によって異なるので一概に医師が過剰になるとは考えておらず、地域の実態をよく調べて、どの診療科医がどの地域に多くいるのか、医師の年齢分布も踏まえ県全体を網羅したうえで考える必要があるとの回答があった。また、医師確保の調整については、島根県全体の状況を踏まえて県と協議のうえ医師派遣を行っているとの回答があった。

#### その他

- 学外委員から、本学職員に対して行った懲戒処分（9月29日公表）に関連して、ここ数年、ハラスメントなど定期的に問題が起こっている印象があるが、大学全体のコンプラ

イアンスに対する気のゆるみなど何らかの要因があるのではないかとの質問があった。学長から、問題を重く受け止めており、職務遂行に対する考え方については様々な研修などで教職員への周知徹底を行っているが十分でないのかもしれない。大きな不祥事になる前にサインを発見して未然に防ぐことが出来ればと考えており、襟を正してやっていきたいとの回答があった。

- 学外委員から、今回の懲戒処分について刑事告発はしないとのことだが、大学として経済的な損失はないと判断したのかとの質問があった。藤田理事から、調査委員会において調査した結果、刑事告発を行う際の根拠となる大学に損害を与えたという事実までは確認できなかったとの説明があった。
- 藤田理事から、ハラスメントに対しては学部長等による現場での対応力を強化するよう指示を行い研修も進めている。コンプライアンス事案についても未然防止のため必要な研修や法令遵守事項の周知を今後さらに強化したいと考えているとの説明があった。